

特集 ユニバーサルデザイン

ユニバーサルデザインって、なあに？
見て、聞いて、体験してみました。

超高齢化社会になつたいま、時折耳にする「ユニバーサルデザイン」(UD)という言葉ですが、知っているようであまり知られてはいません。今回、「富士レークホテル」で体験する機会がありましたのでご報告します。

きっかけは、

昨年7月発行



のみどり会ニュースに、富士レークホテルの若女将として登場された、井出薫子(新35)さん。インタビュの中で「内閣府バリアフリー・ユニバーサルデザイン大臣表彰優良賞をいただきました」とありました。理事の間で「バリアフリーは良く聞くけど、ユニバーサルデザインって詳しく知らないよね？」と話題になり、昨年12月初旬、理事7名は新宿から高速バスに乗り、1泊2日の「ユニバーサルデザイン体験取材」に行ってきました。(勿論、取材費は全て自己負担で)



ユニバーサルデザイン(UD)とは、すべての人にとって使いやすいように、初めから意図してつくられた製品・情報・環境のデザインのことです。対象を障がい者に限定していない点が、バリアフリーとは異なります。米ノースカロライナ州立大学のロナルド・メイス氏によって1985年に最初に提唱されました。

UDルームの第一印象は？

ユニバーサルデザインについては、殆ど白紙状態の私たち。富士レークホテルに到着すると、早速井出社長から導入するにあたっての背景、現状と課題、将来への展望など、丁寧な説明をいただきました。理解の扉が開けました。ユニバーサルデザインが施された部屋に入ると、内装やデザインが落ち着いた雰囲気、ワンランクグレードアップの空間、というのが第一印象。「施設っぽさが前面に出すぎて快適さが損なわれるのでは？」という心配も、全く杞憂に終わりました。

した。いたるところに細やかな配慮がなされ、それが出過ぎることのないよう設計されています。



床がフラットで段差がない部屋は、乳幼児連れのお客様にも人気(車いす車輪、部屋ではカバー装着)。

必要な備品は貸出しで



浴槽手すり



移動式手すり

UDルーム、細かな配慮がなんだか心地良いね。

「この部屋のハンガー、車いすに座りながら洋服が掛けられる！洗面台も、車いすのまま使えるよ」「トイレの両側に手すりがある」「広い個室露天風呂。共同浴場が苦手な外国人にも人気だとか。納得」「部屋の柱が丸い！」などなど。

健常者だけではなく、乳幼児や高齢者、外国の方、そして障がいを持った方も、皆が楽しく心地よく暮らせる。それはどういふことか？という心遣いも学べた取材旅行でした。

食のユニバーサルも実施
アレルギー食から、展開食まで



富士レークホテルの井出社長ご夫妻を始め、従業員の皆様、私たちの取材見学に快く応じてくださり、ありがとうございました。ぜひ会員の皆様も、ユニバーサルデザインの快適な空間を、体験なさってはいかがでしょう。

取材協力(写真・イラスト提供)

富士レークホテル
Tel.0555(72) 2209
山梨県南都留郡富士河口湖町
船津1番地

文・構成 西 敬子(新31)
春原恵子(新31)

http://www.fujilake.co.jp